

## 長野県食と農業農村振興審議会長野地区部会議事録

### 1 日 時

令和元年 7 月 30 日（火） 10:00～12:00

### 2 場 所

長野県長野合同庁舎 504 号会議室

### 3 出席委員

市川千秋氏（長野県農業経営者協会 上高井支部長）  
青木三枝氏（長野県農村生活マイスター 長野支部長、女性）  
清滝真彦氏（農業士協会 上高井長野支部長）  
宮坂直隆氏（ながの農業協同組合 常務理事）  
安藤猛氏（グリーン長野農業協同組合 常務理事）  
小林けさえ氏（長野県農業委員会女性協議会 長野支部副支部長、女性）  
絹川千代氏（長野市暮らしを考える会 会長、女性）  
塩崎仁志氏（(株)長印須坂青果市場 取締役部長）  
矢幡和香子氏（味ロジ株式会社 代表取締役社長、女性）  
櫻井伸一氏（長野市農業政策課長）  
西原周二氏（小布施町産業振興課長）

### 4 次 第

- (1) 開 会（長野農業改良普及センター次長 小林健次）
- (2) あいさつ（長野農業改良普及センター所長兼農政課長 霜田修）
- (3) 部会長選任（長野農業改良普及センター所長兼農政課長 霜田修）
- (4) 議 事（議長：部会長 宮坂直隆）
  - ア 長野県食と農業農村振興の県民条例について
  - イ 第 3 期長野県食と農業農村振興計画について
  - ウ 平成 30 年度長野地域の取組実績について
  - エ 令和元年度長野地域実行計画について  
（ア～エの説明 事務局：長野地域振興局農政課農村振興係長 西澤俊樹）
  - オ 意見交換
- (5) そ の 他（長野地域振興局農政課農村振興係長 西澤俊樹）
- (6) 閉 会（長野農業改良普及センター次長 小林健次）

### 5 意見交換

#### <宮坂部会長>

本日の中では、メインと言われています意見交換ということで、ここに移らせていただきたいと思います。今の説明がありました、30 年度の取組の実績とそれから元年度の実行計画、これにつきまして、委員の皆様それぞれのお立場から時間の限りはございますが、3、

4分程度で一人ずつご意見、ご提言、ご質問等々をお願いできればと思っております。大変恐縮ですが、レジメのところがございます、本日の委員の名簿がございますけれどもこの名簿の順にそれぞれご発言いただいて意見交換をしていければと思っております。

なお、内容によっては事務局からそれぞれご返答等をいただく場面もあろうかと思いませんけれどもよろしくお願ひします。

それでは申し訳ございません。順ということですので、まず、農業者の代表ということの区分の中で、市川さんから順にお願いをできればと思ひます。よろしくお願ひします。

#### <市川委員>

市川と申します。どうぞ宜しくお願ひします。私が今まで聞かせていただいた中で少し感じることはあるのですが、それは、今、私ども果樹でやっています、果樹の内容が昔に比べて良くなりつつあると思うのです。それで、専業農家の方々自体の後継者が前に比べたら大分入られてきているような状況にあり、特にブドウの関係が多いと思うのですけれども、ですからそういう人たちの、親たちがついているから大丈夫だろうと思ひますけれども、より手厚く保護して、より高度な農業経営ができるように引っ張っていただいたらと思ひしているところでございます。簡単ですが以上です。よろしくお願ひします。

#### <宮坂部会長>

はい、ありがとうございます。お一方ずつ個別はいいですかね。みんないただいてからでいいですか。それではですね、青木様よりお願ひします。

#### <青木委員>

マイスター協会の支部長をさせていただきます青木三枝です。よろしくお願ひします。うちは、花き栽培、花をつくっています。この統計だとわずか2%しかないのですが、とっても高冷地なのでいい色とかでまして、だいたい時期とかもお盆とかにかけて丁度当たります。だいたい出荷が当たるような、そういう地域にあります。

ただ、高齢化というのが進んで荒れ地が増えてきておりまして、2年前にですね、ワインの誘致にということで、近くの田んぼを公社の方にお願ひしたんですけど、未だに荒れたままで何も手がついていません。そして、もう一か所、緑茶ですかね。それの方は、ちょっと業者さん分らないんですが、何度も何度も来て、田んぼとか耕地とかへ来ていくんですが、なかなか下の場所と違って800m前後と、結構気温も違ってきますので、すぐに取り掛かれないんですね。春先に来て設置していくんですが、また直ぐに草になってしまって、それで今度は秋に植え付けるかという感じになったりして、なかなか荒れている畑の利用というのが、進んでいかないように思うのですね。そういうところをもう少し、後継者がいないということが一番の問題なんだろうけれどもなかなか大変なふうに感じます。とりとめがありませんが、以上です。

**<宮坂部会長>**

はい、一旦全員の方からいただいて、それからコメントを事務局からいただければと思います。続いて清滝様お願いします。

**<清滝委員>**

農業士協会の清滝です。よろしくお願いします。今回、初めて参加させていただいた中で、今一番自分の中で取り組んでいる中では、米麦大豆ソバがここ最近で取り組んでいるところなんですけど、うちらは、地域で会社を作ってそれでやっているんですけど、大規模で機械化しても、最近特に千曲川の中、河川敷の中が、なかなか、土地はあるけど荒れてきていて、横で作っていると横から草がどんどん侵入してきている、なかなか効率が上がらないという面があって、その千曲川の中をどうにかしていかないといけないというのが、今一番課題となっています。その辺について、これからもご協力していただければ、さらに生産、特に麦大豆の生産力が上がるのかなぁと思っていますので、よろしくお願いします。

**<宮坂部会長>**

はい、ありがとうございます。それではすみません、席の順ということで、農業委員代表の小林様お願いします。

**<小林委員>**

農業委員をやっております小林でございます。嫁いで専業農家なんですけども農家というのは、やはり昔の風習が残っておりまして、若い人たちが、たとえ勉強してきても今までやってきた経験のある家長というか男の人男性は、自分に若い人の意見を取り入れるまでにまだ行っていないというような、ちょっと昔からの頑固としたものが残っていて、若い子が入ってきても、それを自由に自分の意見で自分の経営にできるような状況でないような気がするんですね。その時に家族農業というのではなくて、開かれた法人、そんなような農業ができる場があったらいいなと思うんです。例え認定農業者になっても農業士になっても、それが本当に使えていない、活かせていないかなと思うんです。なので、そういうものを活かしていけるような、若い人たちの意見ももっともっと農業というものに使ってもらえるような、そういう農業経営がでたらいいなあと考えております。よろしくお願いします。

**<宮坂部会長>**

はい、ありがとうございます。続いて消費者代表ということで、絹川様お願いします。

**<絹川委員>**

長野市暮らしを考える会の絹川です。よろしくお願いします。消費者代表であります、

半消費者で私も専業農家を親がやっていたもので、それを定年になりまして全部引継いでちょっと大変だなあという状態で、りんごがたくさんあったのですがそれは全部切りまして、あとはお米とか大豆とか野菜とかできる範囲でぼちぼちやっています。地域でも団塊の世代が退職して、かなりやっちはいるのですが、平地なんですけど鳥獣って程ではないんですけど、かなりいろんな鳥がこれは何かな？っていうものが侵入してきて大分やられたりしながら悪戦苦闘しながらやっているんですが、とても農業というか生産力を高めるっていうところではなく、なんとか引き継いで荒らさないって程度にやっている人がほとんどで、もうこれで限界かなっていう人も多くて、あと生産組合とか用水組合とかも集まるたびに人数が減り、いつまでできるかなって状態で、先ほどお隣の方がおっしゃったように開けた法人というか若い人が魅力的な農業に目覚めてもらいたいとか、すごいそういう思いもあって、場所はかなり平なところなので、あと学校なんかもあるので、子供達とか若い人とか 特に今の時代、それこそうちでもよく親子で焼き芋大会やるとか、長野電鉄の駅の近くなので、電車が見えるところで凄く開けているのではだして歩いて子供たちに、少し前はラズベリー狩りをやったりとか、地域の親子サークルとかも呼んで、いろいろな定期的に長野市では縁側活動というのがあって公開して定期的にいろんな催しって程ではないのですが遊んでもらって、火をたくとか自然に触れるとかとても魅力があるんだけど農業とはとてもかけ離れているとか、でもこれをきっかけに「これがお米の木」とかっていう感じで、ジャガイモどういう風になるとかそういうの全然知らないから、そういうところから、定期的に親しんでほしいし、お父さんにも生産というところに魅力を持ってもらいたいね。

そういうきっかけ作りもしているんですけども、あと学校給食では是非PRしていただいて50%以上を目指しているんですけど、本当においしい果物、生産物いっぱいある長野県 ほとんど50%と言わずに高い目標をもって子供たちにおいしい食材を提供していただきたいなと本当に思っております。まだまだあるんですけども、そういうことでよろしくをお願いします。

#### <宮坂部会長>

はい、ありがとうございました。農産加工代表ということで矢幡様をお願いします。

#### <矢幡委員>

坂城町にあります農産物を加工しております味ロジックという会社代表の矢幡と申します。よろしくをお願いします。農の関係の会議というと女性がほとんどいなくて、いつも私一人なんですけど、今日は女性陣がたくさんいるのでちょっとホッとしています。農業に関しては、私どもは加工の方なので、作るということにはほぼないんですけども、できるだけ地元のモノ果物、野菜を使い添加物のない食材加工をしております。ただ、作っていただける方がいらっしやらないと、私どもの会社が成立しないというところがあります。地元の食材を大事

にして、おやきとかいろいろほぼ手作りで女性のみ 20 数名でやっているんですけども、ここの資料にもありました本物を味わうという部分で、添加物を入れないと今度は賞味期限が短くなってしまいます。販売期間が短いと大量に生産も製造もできませんし、日持ちがしないという部分でちょっと苦しいんですけども、その部分は会社の方針として曲げられないというところがあります。ただ、そうなりますと新商品を開発するのに添加物を使わないとか地元の食材をできるだけ使うとなりますと範囲が狭まってしまいますので、その面で何か案をいただけたらいいなあと思います。

で、農業の担い手の方がやはり、年々歳をとっていき「もう止めるんだよね」とかそういう寂しい意見を聴いてしまうと本当に私どもとしては、加工品として譲っていただいている商品もなくなってしまいます。JAさんも協力していただいている野菜や果物を集めているわけですけども、是非、農業の担い手の方が大きく発展していかれるように楽な農業っていったらちょっと失礼なんかな、若い人でもできるよって、その部分でこういう風に作ってもらった物がこんな風な食べ方ができるんだよ。地元の添加物のない商品こういうものは美味しいよね。っていう風に子供さんたちに広めていくっていうのが私たちの使命かなと、今日思いました。どうぞよろしくお願いいたします。

#### <宮坂部会長>

はい、ありがとうございました。では、続いてグリーン長野の安藤様をお願いします。

#### <安藤委員>

部会長さんと同様にJAなので、県の今日の資料等を見させていただくと、我々が進めているのとはほぼ一致する中でですね、今、新しい化はもちろん、リップもまた長果11ももちろんなんですけど、先ほど言った担い手不足、高齢化、それとお手伝いさん。長野公社に頼んでいるんですが、人数的にも圧倒的に少ない。それで自分たちで発信して、小さい子供がいる方やそういう人とかに時間を区切ってでもお手伝いをやってほしいとか、そういう方向で出してみても、なかなか、いろんな法人の皆さんもやってみているのですが、なかなか来ない。そんな中、市川さんが言ったブドウが、シャインも日本一になって韓国でも作っているようですけども、ブドウ棚の補助、長野市では、本当に農業の支援補助金が大変減らされていて、市議員さんもだいぶ頑張っているようですが、だんだん他の方へ行っていて、そういうことも県の方から、やっていただくような、棚の補助、苗の補助、全て農協独自でも農家のためにやっている内容だけでも、やはり行政の方からですね、農業、こういう創造プランの中で長野県の果実、米、野菜すべてですね、山梨にモモは完璧に負けていますけども、長野は3位のモモ、やっとな梅雨明けて出荷最盛期に向けて、今選果場は必死にやっているんですけど、値段的には山梨が高く売っていたんですけども、ここでまた箱で500円単位で下がっている。味のいい長野が出て行ったときに、山梨の味の悪いのが今年の雨の中で高かったからその高値疲れもあつたりして安くなっているんですけど、

我々は農家の皆さんに1円でも高く取ってもらうように頑張っているのですが、隣に長印さんもいらっしゃるんですが、やはり市場の皆さんとタイアップしてやっています。

で加工もそうですし、今後、こうやってみなさんと話をして、こういう風にやってほしいとかこの辺を何とか変えてほしいとか出たんですけども、農協としては、県の皆さんとタイアップをしてですね、できるだけ農家の皆さんの、もう運賃高い、資材高い、ローンが少ない、その中で農家の人たちは必死にやっているんですよ。昔と変わったところは、そういうところが全然変わって、で担い手がいないよっていう、グリーン長野の青年部全て260有余の青年部員がいてですね、若い20代から始まって、壮年部までいて60代から70までの壮年部を入れてみんなで意見交換をしたりして、その中で農家いいものをつくる、モモは少なくならないように頑張る、でブドウはブドウでシャインやると、サニールージュやるとこういう風に向けて、是非、県の普及センター始め協力をいただいて今日のこれが表に出るような感じでやってもらっているのですが、細かいようですけども、大変ありがたいんですけども、そんな方向でやっていただければと思います。農協も必死で農家のために頑張りますので、いずれ長野県の農業、食と緑というところまで行くんじゃないかな。

先ほどあったように荒れたところを荒れないようになんですが本当にそういうところが多くなってきていて、中山間地、特にそういうところに補助金を出していただいて、何か、ソバといってもソバは10アール70kgぐらいしか採れない、金にもならないし細かいことはいっぱいあるんで、また、懇談などで話をさせていただければと思いますので、我々農協として、ながのさんと我々グリーン長野と長野市の中には2つしかないのですが、そんな内容で一つやっていただければありがたいと思います。すみません。

#### <宮坂部会長>

はい、ありがとうございます。では続いて流通業者代表ということで塩崎様お願いします。

#### <塩崎委員>

長印須坂、塩崎と申します。お世話になります。市場の立場から少しお話しさせていただきます。我々の市場、須坂の方にある市場なんですけれども産地市場ということで、農家の方の持ち込み出荷をいただきながらやっているような市場でございます。現状、登録生産者が約2,000名強いるんですけども、昨年新規で、新しく50名ほど登録いただきました。新しく市場の方に出してみたいということで、新しく50名強の方に登録いただいたんですけども、1年間終わって内容をよく見てみますと、60数名の方が出していないと、今まで登録されていたけれども出荷になっていないということでよくよく調べてみると、出荷されない方に電話等で聞いてみると、じいちゃんばあちゃんがやっていたんですけども、ばあちゃん具合悪くなってもうできなくなったから、もう畑やめちゃったとか、もうできないので樹を切っちゃったとか、そういう方が多くて、50名増えたと喜んでいただんですけど

も、実質見てみると出荷者数は減っているということを感じて、これは本当に大変なことだなあと感じているところです。実際に今、果樹が中心なんですけれども特にリンゴの関係は70代80代の方が中心だと言っても過言ではないくらい非常に高齢化しています。あと何年かすればもうできなくなってしまうというような方々がまだ今、何とかやっているというのが現状ではないかなあという風に感じます。

先ほど話がありましたけれどもブドウの方は後継者というか跡継ぎの方が入ったりして、まだ若い方がやっているかなあという感触はあるのですが、特にリンゴの関係は非常に厳しいのかなと感じております。売上自体も前はリンゴ中心といった売上だったんですけれども、今はブドウに切り替わっている、ブドウの方が上へ行っているというような状況になってきています。そのような中でこの後、こういう後継者をどうやって創っていくとか残していくかというのが今の課題だと思うんですけれども、特に今、話のあったとおり若い方にどうやって農業をやってもらおうかというのが大きなポイントになるのかなあと考えています。なかなかこれといった解決策がすぐに見つかるわけではないと思うんですが、若い方が農業やってお金が取れて生活できるというような環境をつくっていくことが大事だと思います。

一つ感じているのは、畑ができなくなって借りてくれという畑がいっぱいあるんですけれども非常に点々としていて、借り手もあっちの畑へ行ったりこっちの畑へ行ったり非常に作業効率が悪いと、ある程度スマート農業なりというものを考えるのであれば、ある程度まとまった土地で大規模にできる園地なりというのを考えていく必要があるのかなあというのを感じていますので、土地の関係は県の関係になるのか、私よくわかりませんが、その辺の状況もうちょっと大規模農業ができるような環境も作っていただくと若い人たちがやって法人なり企業なりを立ち上げながら大きな農業をできるのかなあと感じています。

今まで通りの新規就農者の方へのフォローですとか支援というのは非常にありがたい取り組みなので引き続きお願いしたいと思いますし、市場側としても農協さんと連携しながらです。量販店の方、販売先方へつなげていくということをしつかりやっていきたいと感じています。まとまりませんが、以上です。

#### <宮坂部会長>

はい、ありがとうございます。それでは市町村代表ということで、長野市の櫻井様お願いいたします。

#### <櫻井委員>

長野市の櫻井でございます。私ども市町村の行政の立場でございます。その立場から先ずは県の農業農村振興計画、この達成あるいは進捗県と一緒に進めているという私ども立場でございます。これにあたりましては、国、県事業の実施にあたり県の皆さま方からは指導を頂戴し、また、新事業に対する支援をまたいただいております。この場をお借りしまし

て先ずもって御礼申し上げます。

県が計画を策定実施しているのと同様に、長野市におきましても農業農村振興計画にそって実施しております。長野市の場合には長野市農業振興アクションプランという名称でございます。そのアクションプランの中では大きく多様な担い手の確保育成、農地の有効利用の推進、生産の振興、そして農村の振興といったような大きな柱がいくつかございます。内容はほとんど県の振興計画とほぼ同様ということでございますので、私ども市は市のアクションプランを一生懸命実施、達成を目指して活動することでこれがひいては県の計画の達成に寄与していくんじゃないかなとおもって一生懸命やっているところでございます。

また、県の皆さまにはともによろしくお願ひしたいということと、市の計画の実施にあたりましても、農協さま、そして農業者の皆さまのご協力が必要でございますので、改めてお願ひを申し上げさせていただきます。近々の課題といたしましては、人・農地プラン、農業次世代人材投資事業と課題もございりますが、また、皆様方のご尽力ご支援をお願ひしたいということで、まとまりませんが、私の発言とさせていただきます。よろしくお願ひします。

#### <宮坂部会長>

はい、ありがとうございます。続いて小布施町の西原様お願ひします。

#### <西原委員>

小布施町の産業振興課の西原と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。農業振興全般につきましては、今、長野市さんの方でお話あったとおり行政としまして同様に進めております。関係団体の皆さま、農業者、加工業者、生産者の皆さま、流通業者の皆さまにも大変お世話になっておりますし、長野県の皆さまからもご指導いただいているところでございます。大変ありがとうございます。

こちらは農業振興とちょっと視点が違うかもしれませんが今回の計画の中の重点取組の5の皆が訪れ暮らしたくなる農村づくりというのが、今後の事業継承の中で非常に大切なところになってくるのかなと思っております。この重点取組5の達成指標、直接的目標達成にできる事業ではないのかもしれないのですが、農村集落内の住宅と農地の混在等がですね、小布施町については大きな問題となっております、より暮らしたくなる農村づくりにつきまして、そういったところの、いわゆる農地と住宅の混在というものの解消してゆかなければならないと思っております。こういった問題につきましても是非長野県さんからの応援をいただきたいところでありますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。簡単ではありますが、以上でございます。

#### <宮坂部会長>

はい、ありがとうございます。私も委員の一人ですから、何か言っておいた方がいいかなと思ひますけれども、振興計画も含めてでましたけれども先ほど農協という同じ立場



の中でグリーン長野の安藤常務からいただいた農協の立場については全くそのとおりでございます。全く別の視点で1点だけ非常に憂慮されるだろうと思われることについて意見を申し上げておきたいと思います。JAグループとして販売額でみてまいりますと行政区分で行くと長野地域と北信地域があります。北信というくくりになりますけれども、この取扱いが青果ベースでだいたい390億ぐらいです。そのうち55%ぐらいがくだもの(果実)になりまして、先ほどから出ておりますように基幹品目ということで位置づけがあるんですが、職業柄都会の方へ出かけて行って消費宣伝会等をやるんですけども、りんごの時期に行きましたら丁度休日でしたので若い方々もお店の方に来ているんですが、買い求められる方というのはほとんどが60歳以上の方です。若い方は見ることは見るのですが、買うことはほとんどないということで、統計上でもみてみますと、国民の一日当たりの果物の消費量というのが、たしか100g切るか切らないかという数字だったかなと記憶しております。で、その中で一番食べるのが60歳以上の方、この方が160~170グラムだと言われております。一方、30代になりますと1日60グラムとか70グラムということですので、消費宣伝でおばちゃんと話をするのですが、お買い求めいただく奥さんというかある程度高齢の方は好きで食べているんだよ、ただ歯が丈夫で食べられるうちだけだよなんて笑い話になるんですが、これは笑い話でなくて、もし、この方々が食べられなくなっちゃったらどうなるんだろうかと。今の若い方が30グラム40グラムでいくと、掛ける人口が生産量とマッチングするかしないかと、振興は振興としてやっていったとしても、食べる方胃袋の占有率がなくなると果物も当然需給バランスというものがありますから、ようは売れなくなるということになりますので当然として果樹農業が生業として成り立っていかないということになります。こんなところを危惧したところです。

都会の方の会社の方では社員食堂というところで、最近何年か前からかなり果物を積極的に提供するようになってきていると、これはどちらかというと需要掘り起こしということになるんだろうと思いますけど、そういう部分では非常に良い取組かなと思っております。都会だけでなく、長野地域いわゆるひざ元からですねそういったこと、今日は「食と農」がキーワードでありますので、そこを含めていかに若い人たちのライフスタイルに果物を採るということに誘導できるか、これも大きな課題なのかなと今から手を付けないともたなくなっちゃうのかなとこんな気がしています。気付いたところだけ勝手に申し上げましたけれども、よろしくお願ひしたいと思っています。

はい、全員の方からいただきました。言い忘れたこと等ございましたらお出しいただきたいと思います。よろしいですかね。いただいたご意見等々について、地方事務所の方でコメントございましたらお出しいただきたいと思います。

#### <霜田課長>

貴重なご意見いただきましてありがとうございます。少しコメントできる箇所はお答えさせていただきたいと思います。私の方で回答できない箇所は、担当の係長おります

ので、補足していただければと思います。順番に最初に市川委員から、後継者がブドウの方で割と入ってきている。また、高度な農業経営とかで引っ張っていただきたいといったお話がありました。それぞれ、作目ごと農業簿記とか法人化とかテーマごとに様々なセミナーを開催してございますので、そういったものを受講していただきたいということ、並びに年齢がだんだんそういう段階になってきましたら、まず青年クラブに入ってください、農業士に入ってくださいそういったような段階を追っていただければと思いますので、お願いいたします。

それから青木委員のほうからいただきました、ワインの誘致で田んぼを公社に貸しても荒れているというお話がありました。また、これは内容を確認させていただきますが、貸し手から公社が借りまして、そのあと、借り手の方に貸していくという風になっておりまして、公社のところですと持っているということは、実際にはないです。中間に入って次の借り手の方に貸していく手続きを取っておりますので、どういう状況なのかわかりませんが、また内容を確認させていただきますと思っています。

それから、清滝さんからいただきました河川の中の荒れていることなんですけど、ちょっと状況を承知してないんですが、今現在、先ほど少しお話がありました、人農地プランというのをそれぞれ市町村で作っていただいております。その人農地プランの中で将来規模拡大したい人、あるいは将来規模縮小する、あるいはりんごをやりたい人、こういったものをそれぞれアンケートを取って確認をしていく、そういう作業をしていただく中で、近い将来止める、あるいは規模縮小するという人は、規模拡大するという人に農地を貸していく、そういったことをやっていくための人農地プランという作業をこれからやっていくようになっていきますので、そういった中で止める人、規模拡大する人がはっきりしてくるのかなと思っていますので、お願いします。

それから、小林委員の方から若い人の意見がなかなか受け入れられないというお話がございました。法人化というようなお話もありました。法人化につきましてもどういった法人にするかといった相談を私どもの方で承っておりますので、ご相談承ります。それともう一つ家族経営の中でそれぞれ家族の中の役割分担をするということで、家族経営協定を締結するというのも私どもの方で進めておりますので、是非、家族の中でお話しいただいて、役割を決めて家族経営協定、仕事をする上でのモチベーションにもつながりますので、そういったことをお願いします。

それから、絹川委員からいただきました鳥獣害のことにつきまして、先ほども数字でお示ししましたが、1億円を切って鳥獣被害9,000万円代になったと、少しここ数年だんだんと減ってきています。ただ、そうはいつても9,000万円という大きい被害金額になっておりますので、できるだけ防護柵とかそういった事業を取り入れていただきたいと思いますが、そうは申しましても全てそれだけでは対応できなくて、やはりこれにつきましては、集落の皆さんで集落ぐるみで取り組んでいただくことが重要だと思いますので、そういったことでもお願いします。

それから矢幡さんの学校給食の話がございました。学校給食の割合が 50%行くか行かないかという数字でございます。当然理想は 100 なのでしょうけれども、どうしても長野県の場合は、冬場の農作物がないというのがございますので、その辺がどうしてもそれぐらいの率になってしまうのかなと。それから、今、給食センター方式でかなり数千食とか一万近い食数といったセンターもございますので、なかなかそういった場合、小さいロットのものは納品しにくいといったこともございますので、そうは申しあげましても栄養士さんのお考えも大きいと思いますので、また、県庁の方と連携してそういった取組もしていきたいと思っております。

それから、6次産業化ですか、商品開発といった相談、6次産業化の相談もあるいは、しあわせ信州食品加工センターが食品工業試験場の方にありますので、そういったところで試作品を作るとか、試作品の内容成分を分析するとかそういったこともできますので、またご利用いただければと思います。

それから安藤委員から、ブドウの棚ですが、ブドウの棚そのものというところとちょっとあれなんですけど、国の産地パワーアップ事業というので中野市農協などはブドウの棚を導入している事例もあるようでございますので、そういったものをうまく活用できればと思います。

それから、塩崎委員のりんごですか、確かに今、ブドウの方が比較的好調なんですけど、りんごの方は難しくなっております。とは申しましても、県はシナノリップとか新しい品種も出しておりますので、あと新しい化との組み合わせといったことでもお願いします。

それと、先ほど規模拡大、農地集積の話もございましたが、先ほど申しましたように人・農地プランというのを今やっております。そういった中で出来るだけ担い手に集積または集約、土地を移動して集約ということも進めておりますのでなかでお願いします。

それから、西原委員の話は、すみません。とりあえずお聞きしておきたいと思っております。

それから、部会長の方から若者の果物離れの話が出ました。これは、私どもも前々から重々承知しておまして、若者も少ないし、日本国民が世界的にみて非常に低い水準の果物消費国だということもございます。これは、抜本的な対策は難しいと思うのですが、私ども今年、果物語りの取組の中で、スイーツビュッフェという果物を使ったスイーツの試食会といったこともやっていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

もし、皆さん補足がありましたらお願いします。

とりあえずこれでお願いします。

#### <宮坂部会長>

はい、ありがとうございます。意見交換ということではですね、それぞれからいただきましたし、事務局からもコメントをいただいたということでございます。全体を通しまして何かございましたらお出しいただければと思います。せっかくの機会だと思いますけれども、よろしいですかね。事務局の方はよろしいですか。

ありがとうございます。

委員の皆様には非常にご熱心にご審議をいただきました。御礼を申し上げたいと思います。本日、委員の皆様から提案されました意見、要望等につきましては、事務局におかれましては、県へ審議会の報告、それから計画実現に向けた施策の実施をいただきまして、関係機関団体と連携した支援をおこなえる中で、食、農業、農村この理念の浸透に努めていただければと、こんなところをお願い申し上げます。

それでは、以上を持ちまして、皆様方のご協力により議事につきましては無事終了することができました。御礼を申し上げて議長を退任させていただきます。ありがとうございました。